令和7年度 施設管理運営事業評価票(令和6年度実施分)

1 評価対象施設

公の施設の名称	宝塚市立安倉児童館				
所在地	宝塚市安倉南1丁目2-1				
指定管理者	団体名	社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会	指定期間	開始日	令和5年4月1日
	所在地	宝塚市安倉西2丁目1番1号		終了日	令和10年3月31日
選定方法	公募		評価実施年	指定期間5年のうち2年目	
施設設置目的	児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにするため。				
主な実施事業	①子どもの居場所づくり事業 ②地域子育て支援拠点事業 ③子ども、子育て家庭を中心とした地域のネットワークづくり事業 ④出前児童館事業 ⑤身体障害者支援センターとの複合施設としての連携事業				

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a 利用人数	人	7,500	8,652	8,000	9,024	8,000	9,688	9,100	11,735
b 1日当たりの平均利用者数	人	-	31.01	-	30.77	-	33.76	-	40.61
c 18歳未満の子どもの人口1人当たりの児童館・出前児童館利用回数	回	0.17	0.21	0.21	0.21	0.22	0.24	0.25	0.3
d 出前の利用者数	人	-	721	-	1,417	-	2,214	-	2,781
e									

3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区分		令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算
収入計	A	21,119	21,454	22,393	22,304
指定管理料		21,025	21,025	22,225	22,225
利用料収入	C	0	0	0	0
自主事業収入		0	0	0	0
その他		94	429	168	79
支出計	B	20,883	21,110	22,164	22,225
指定事業費		20,883	21,110	22,164	22,225
内、人件費	D	15,380	15,934	16,406	15,727
内、再委託料	E	2,212	2,181	2,197	2,184
自主事業費		0	0	0	0
事業収支	A-B	236	344	229	79
利用率	C/A	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
人件費率	D/B	73.6 %	75.5 %	74.0 %	70.8 %
再委託費比率	E/B	10.6 %	10.3 %	9.9 %	9.8 %

・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。

・着色セルは、自動計算としている。

・事業費は、前年度以前の決算を記載する。

補足説明	
------	--

4 評価

注)自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目	評価基準	自己評価	所管評価	
①サービスの履行の確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。 必要な資格、経験を有する人員が確保されている。 事業計画に即し、計画的に研修等を実施している。	A A A	A A A
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており適切である。 外部委託業者に対して協定書等を遵守させている。	A A	A A
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	A	A
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令等を遵守している。 個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。	A A	A A
	情報公開	情報公開に関する法令等に準じた運用を行っている。 協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	A A	A A
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。 点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A A	A A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。 市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A A	A A
	緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。 緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。 緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。	A A A	A A A
	財務状況	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準18項目/本施設 項目】	A	A
	②サービスの質の評価	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	A A
利用者対応		利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。 利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。 言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	A A A	A A A
事業運営		事業計画に即し、受託事業を実施している。 施設の目的に添った自主事業を実施している。 事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	A A A	A A A
維持管理		仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。 仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。 備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。 協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A A A A	A A A A
環境配慮		省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	A	A
広報活動		事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	A	A
苦情等対応		要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。 要望、苦情等を整理し、遅滞なく市に報告している。	A A	A A
利用者アンケート等		利用者アンケート調査等を実施し、その結果が妥当である。	A	A
利用状況		利用者数、稼働率等は、目標に対し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》		「業務の内容・水準」に関する評価 【標準18項目/本施設 項目】	A	A
③安定性		経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	A	A
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	A	A
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	A	A
《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設 項目】	A	A	
指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)	令和5年度の課題であった小学生利用が戻らないことについて、令和6年度は1年生の利用が4月から多く、1年生や低学年も参加できるプログラムを増やし新規の利用につなぐことができた。祭りなどの特別プログラムでは、お便りだけでなく学校や地域掲示版に子どもたち手作りのポスターを掲示し、周知した。その効果もあり、令和6年度は小学生の利用が増加した。中高生の利用が少ないのが課題であるが、利用者や中学校からの意見もあり、中学生タイムは毎週火曜日に実施しているものを令和7年度から部活休みの水曜日に変更することで、中学生利用増加につなげたい。			
施設所管課所見 (成果、課題、今後の改善点等)	コロナ禍以降、小学生～中高生の放課後の動きも流動的で把握が難しい中で、利用者や学校との関係性から利用促進のヒントを探り、実際の取組に反映し結果に繋がったことは評価したい。これまでの継続した地域や小学校、関係機関との連携により、多様なニーズへの対応と個々の児童に寄り添う支援に努めていることが要因の一つと思われる。引き続き、地域児童館としての役割を認識しながら、児童の利用促進を図るための工夫に努めていただきたい。			
前年評価	A	総合評価	A	

※評価区分

評価基準:	S	=	協定書等の水準を大きく上回っており、優良である。
	A	=	協定書等の水準を満たしており、良好である。
	B	=	協定書等の水準を満たしているが、一部改善が望ましい。
	C	=	協定書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。
《総括》:	S	=	評価基準が全てA以上であり、かつSが過半数である。
	A	=	評価基準のうちBが3割未満で、Cがない。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S	=	自己評価、所管評価の《総括》にB・Cが含まれず、かつSが過半数である。
	A	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、Bが2つ以下である。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。